

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ 本研修を通して、児童を見る視点を増やすことができました。子どもを社会全体で育てていく上で、放課後児童クラブが子どもの虐待や貧困を発見する一つの目としての役割を果たさなくてはならないと思いました。秋田県の現状についての説明では、子どもの虐待や貧困が稀なことではなく、日常的にあると知ることができました。秋田県の理念としている「子どもを見守る目と支えようとする人の輪（和）」といった自覚をもって今後の支援にあたっていきたいと思います。
- ◆ 今回学んだのは「貧困」と「虐待」でどちらも子どもの命に関わるとても辛い内容でした。分かりづらいことがほとんどで、目に見えない（見つけづらい）、言わない（言えずに隠す）という状況に対し、私が気付くことができるのかと怖くなりました。私ができることは子どもたちの様子をよく観察し、小さなことでも気付いたことがあれば、職員間で相談し合うことで、子どもの安全を守るお手伝いをしていきたいです。
- ◆ 児童虐待の捉え方、児童の貧困、対策について学びました。児童虐待については、虐待を早期発見できる立場として子どもに寄り添い支援をしていきたいと思います。常に職員との情報を共有し、小さな変化を見逃さず、市町村や関係機関と連携を図り、子どもの権利を守るために行動していきたいです。今を守られてこそ、将来の健全な育成に繋がるということを学びました。
- ◆ 見抜くことが難しい児童虐待の現実と、物にあふれた今の時代に貧困家庭で育つ子どもが少なくない現状を学びました。どちらも他人からは見えにくいものであり、他人には見せないものであります。まして、子どもの時にはそれが理解できていないので、逃げ出したり、助けを求めたりすることもできないので、なかなか救ってあげられない現状があると思います。子どもの近くにいる私たちなら、何かに気付いてあげられることができると思いました。
- ◆ 児童虐待は身体的・心理的・性的なものやネグレクトなどもあり、特に心理的なものが多く、行動をコントロールできなくなったりしてしまうといった症状が出てきます。子どもの様子や親の態度に注意し、虐待の兆候があるときは職員間で情報を共有し、市町村や学校等と連携しながら、虐待の早期発見することが大切ということでした。日々の記録を詳細に残し、職員間で情報共有することを心がけていきたいと思いました。